

# キャンドルのつどい



## 1 活動のねらい

コミュニケーション能力	自分のことは自分でする	何事も最後までやり遂げる	リーダー性	自己をふり返り、集団を見つめ直す	自然に親しみ、環境について考える
○			○	○	

## 2 概要



キャンドルの火を囲み、ゲーム・歌・ダンスなどをとおして、全員が心を通わせ、連帯感や友情を深め、楽しい思い出をつくりながら、研修のまとめや自己を深く見つめる機会にすることができます。

## 3 対象及び活動形態

幼児～成人(200名程度まで)

## 4 活動の流れ(例)



会場設営、役割の確認

1・3部のリハーサル

※立ち位置・係ごとの動き方等の確認

### 迎え火のつどい

### 交歓のつどい

(レクリエーション・出し物)

内容は、各団体で工夫しましょう。

### 送り火のつどい

### 片付け

・燭台・軍手等の片づけ(倉庫)

・CD デッキ等の返却(事務室)



キャンドル燭台



1・3部は厳肅、2部は楽しい雰囲気で行います。

キャンドルの係や出し物をする人は、事前にしっかり準備をしておきましょう。

## 5 準備物

『青年の家』 ローソク(火の神用)、燭台、トーチ、衣装、音響機器(CD プレイヤー、CD、マイク、スピーカー)

『団体』 ローソク(火の守×2本:5号程度)、小型懐中電灯、チャッカマン、第2部に必要な用具

## 6 当日実施までしておくこと…係・役員の選出と台詞の確認・練習

役割分担例(人数)	第1部	第3部
責任者(1):成人	司会の補助と安全管理を行う	
火の長(1):成人	はじめの言葉	静火・まとめの言葉
音響(1)・照明(1):成人	場に応じた音響の調整・照明の調整	
火の神の補助(1):成人	火の神のローソクへの点火	
司会(2)	プログラム全体の司会進行を行う	
火の神(基本1)	入場・分火	静火・退場
火の守(最大8)	燭台への点火・誓いの言葉	
祈りの言葉(1～数名)	祈りの言葉	
献詩(2)	詩の朗読	